

政策等の評価の実施状況及び評価結果の政策等への反映状況

Ⅰ 政策等の評価の種類

○研究課題評価

Ⅱ 評価の実施状況

1 研究課題評価の対象

○平成26年度の評価件数

事前評価	18	件
中間評価	23	件
事後評価	21	件
追跡評価	1	件
合計	63	件

○研究課題評価の対象

県立試験研究機関が行う試験研究開発課題（調査、分析を含む。以下「研究課題」という。）のうち、次に掲げるものを対象とする。ただし、研究を含まない技術移転、普及、指導のみに係るものについては評価の対象としない。（研究計画が技術移転、普及、指導を含むものであるときは、当該技術移転、普及、指導についても評価の対象とする。）

- (1) 事前評価  
平成27年度に新たに予算計上しようとする研究課題
- (2) 中間評価  
平成25年度以前に着手し、平成26年度に予算計上している研究課題
- (3) 事後評価  
平成25年度に終了した研究課題
- (4) 追跡評価  
平成23年度に終了し、24年度の事後評価で追跡評価が必要と判定された研究課題のうち学術振興課長が必要と認める課題

2 研究課題評価の実施時期

(1) 事前評価

○内部評価	平成26年	8月～9月
○外部評価	平成26年	8月～9月

(2) 中間評価

○内部評価	平成26年	8月～9月
○外部評価	平成26年	9月

(3) 事後評価

○内部評価	平成26年	8月～10月
○外部評価	なし	

(4) 追跡評価

○内部評価	平成26年	9月
-------	-------	----

3 研究課題評価に用いた観点及び判定基準

(1) 事前評価

○必要性	・政策的妥当性	総合評価	A	実施する意義は高い
○有効性	・研究開発効果		B	実施する意義はある
○技術的達成可能性	・技術的達成可能性		C	実施する意義はやや低い
	・研究計画・研究体制の妥当性		D	実施する意義は低い

(2) 中間評価

○必要性	ニーズの状況変化	A	ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている
		B	ニーズに大きな変動はない
		C	ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている
		D	ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている

○有効性	効果	A	大きな効果が期待される
		B	効果が期待される
		C	小さな効果が期待される
		D	効果がほとんど見込めない
○目標達成可能性	進捗状況	A	計画以上に進んでいる
		B	計画通りに進んでいる
		C	計画より遅れている
		D	計画より大幅に遅れている
	目標達成阻害要因の状況	A	目標達成を阻害する要因がほとんどない
		B	目標達成を阻害する要因が少しある
C		目標達成を阻害する要因がある	
D		目標達成を阻害する要因が大いにある	
総合評価	A 当初計画以上の成果が期待できる		
	B 当初計画通りの成果が期待できる		
	C さらなる努力が必要である		
	D 継続する意義は低い		

(3) 事後評価

○目標達成	最終到達目標の達成度	A	十分達成できた
		B	ほぼ達成できた
		C	達成できなかった
○有効性	研究成果の効果	A	効果大
		B	効果中
		C	効果小
		D	効果測定困難
総合評価	S 当初見込みを上回る成果		
	A 当初見込みをやや上回る成果		
	B 当初見込みどおりの成果		
	C 当初見込みをやや下回る成果		
	D 当初見込みを下回る成果		

(4) 追跡評価

○研究成果の活用	研究成果の活用方法	A	適切である
		B	概ね適切である
		C	不適切である
研究成果の活用状況	研究成果の活用状況	A	当初見込み以上に活用されている
		B	当初見込みどおりに活用されている
		C	当初見込みほど活用されていない
○研究成果の波及効果	経済的波及効果	A	当初見込みより大きな波及効果が認められる
		B	当初見込みどおりの波及効果が認められる
		C	当初見込みほどの波及効果が認められない
	県民生活上の波及効果	A	当初見込みより大きな波及効果が認められる
		B	当初見込みどおりの波及効果が認められる
		C	当初見込みほどの波及効果が認められない
	科学や技術の推進への波及効果	A	波及効果が大きいと認められる
		B	波及効果が認められる
		C	波及効果がほとんど認められない
総合評価	S 当初見込みを上回る効果		
	A 当初見込みをやや上回る効果		
	B 当初見込みどおりの効果		
	C 当初見込みをやや下回る効果		
	D 当初見込みを下回る効果		

III 研究課題評価結果の概要及び政策等への反映状況

1 評価結果の概要

「評価結果一覧」を参照

2 評価結果の政策等への反映状況

「研究評価結果の政策等への反映状況」を参照

## 研究課題評価結果の政策等への反映状況

### ■事前評価

必要性、有効性及び技術的達成可能性の観点から設定した評価項目で評価を実施し、総合評価で「実施する意義はある」のB評価となった課題は18課題であった。B評価となった18課題について、各評価項目における評価委員会の指摘事項及び改善意見等を踏まえて、実施についてさらなる検討をしている。

### ■中間評価

必要性、有効性及び目標達成可能性の観点から設定した各評価項目で評価を実施し、総合評価で「当初計画どおりの成果が期待できる」のB評価とされた23課題については、各試験研究機関において最終到達目標の達成に向けて、平成27年度も引き続き研究を継続していくこととした。

### ■事後評価

目標達成及び有効性の観点から評価を実施し、総合評価で「当初見込みを上回る」と判断された3課題はS評価とし、「当初見込みをやや上回る」と判断された3課題はA評価、「当初見込みどおり」と判断された14課題はB評価、「当初見込みをやや下回る」と判断された1課題はC評価とした。

各試験研究機関においては、評価結果を今後の研究成果の活用や新規研究課題の設定等に反映していく予定としている。

### ■追跡評価

研究成果の活用と波及効果が「当初見込みを上回る」と判断された1課題はS評価とした。

当該試験研究機関においては、評価結果を今後の研究成果の活用や新規研究課題の設定等に反映していく予定としている。

平成26年度 事前評価(平成27年度新規研究課題)結果一覧

	研究機関名	課題名	事業年度	政策的妥当性	研究開発効果	技術的達成可能性	総合	総合評価
				得点率(%)	得点率(%)	得点率(%)	得点率(%)	
1	総合食品研究センター	ちがいの分かる秋田ブランド純米酒の高品質化に関する研究	H27～H29	86	72	78	79	B
2	総合食品研究センター	「秋田のがっこ」いぶり漬の高品質化に関する技術研究	H27～H29	85	68	74	76	B
3	総合食品研究センター	白神乳酸菌や秋田美桜酵母を核とした新規商品群の開発	H27～H29	78	67	66	70	B
4	健康環境センター	肺炎球菌感染症における血清型分離状況の解明	H27～H29	80	72	75	76	B
5	農業試験場	野菜のオリジナル品種を核とした秋田ブランドを確立する新品種育成	H27～H31	82	66	75	74	B
6	農業試験場	秋田ブランド化へ向けた花き栽培技術の開発	H27～H31	71	67	61	66	B
7	農業試験場	秋田の花を彩る新品種育成	H27～H29	71	70	71	71	B
8	農業試験場	排水不良転換畑での地下水位制御システムを活用した大規模戦略作物の定着技術の確立	H27～H29	81	76	67	75	B
9	農業試験場	大規模低コスト化モデルのための水稲作期拡大技術の開発	H27～H29	60	50	60	57	B
10	果樹試験場	ニホンナシ「秋泉」の産地化を加速する早期成園化技術の確立	H27～H31	84	76	77	79	B
11	畜産試験場	飼料用米給与による早期若齢肥育技術の開発	H27～H31	82	70	77	76	B
12	畜産試験場	子牛の生産性向上に向けた新たな精液凍結方法の開発	H27～H29	82	77	78	79	B
13	畜産試験場	比内地鶏生産性向上に向けた飼養管理技術の確立	H27～H28	82	76	75	78	B
14	水産振興センター	底魚資源の持続的利用と操業の効率化に関する技術開発	H27～H31	75	73	76	75	B
15	水産振興センター	種苗生産の低コスト化と効果を高める放流の技術開発	H27～H31	80	71	75	75	B
16	水産振興センター	内水面重要魚種の増殖効果を高める研究	H27～H31	77	70	59	69	B
17	林業研究研修センター	スギ人工林における地位級区分の高精度化に関する研究	H27～H31	77	75	75	76	B
18	産業技術センター	秋田スマートハウス機器の研究開発	H27～H31	67	54	54	58	B

※評価結果(総合評価)の意味

A:実施する意義は高い

B:実施する意義はある

C:実施する意義はやや低い

D:実施する意義は低い

平成26年度 中間評価(継続研究課題)結果一覧

	研究機関名	課 題 名	事業年度	二一 ズの 状況 変化	効果	進捗 状況	目標 達成 阻害 要因 の状 況	総合評価
1	総合食品研究センター	新たな市場に切り込む秋田発新規発酵食品の開発に関する研究	H25～H27	B	A	B	B	B
2	総合食品研究センター	「食農医連携」による食品・バイオ関連産業の振興に関わる技術開発	H25～H27	B	A	B	B	B
3	総合食品研究センター	循環型・低炭素社会の構築を目指したバイオリファイナリー技術の開発	H25～H27	B	B	B	B	B
4	健康環境センター	1,4-ジオキサン分解菌の培養および長期保存条件の検討	H25～H27	A	A	B	B	B
5	農業試験場	地域内有機質資源の肥料成分のフル活用による持続的農業生産技術の推進	H24～H28	A	B	B	B	B
6	農業試験場	人と環境に優しい水稻減農薬防除技術の確立	H25～H27	B	B	B	B	B
7	果樹試験場	地域適応性が高い優良新品種の育成と選抜	H18～H27	B	B	B	B	B
8	果樹試験場	ナシ・ブドウ・モモ・その他果樹の育成系統及び新品種の適応性検定試験(第4次)	H23～H32	B	B	B	B	B
9	果樹試験場	温暖化に起因する果樹の主幹凍害を抑制する技術の確立	H25～H29	A	B	B	B	B
10	畜産試験場	飼料用米給与牛肉の食味特性の解明	H25～H27	A	B	B	B	B
11	畜産試験場	比内地鶏出荷率向上のための研究 - 圧死の原因解明と予防対策 -	H25～H29	B	B	B	B	B
12	水産振興センター	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発	H24～H28	B	A	B	B	B
13	林業研究研修センター	秋田の里山を彩る広葉樹林のあらたな育成管理技術の確立	H23～H27	B	B	B	B	B
14	林業研究研修センター	マツタケ等菌根性きのこの生産技術の開発	H23～H27	B	B	B	B	B
15	林業研究研修センター	こがね色の希少な秋田杉“アオヤジロ”の特性解明と活用に関する研究	H23～H27	B	B	B	B	B
16	林業研究研修センター	秋田県に侵入し広域的に拡大する森林生物被害の生態と防除に関する研究	H25～H29	A	B	B	A	B
17	産業技術センター	高速・高精度アクチュエータの多軸化技術の開発	H23～H27	B	B	B	B	B
18	産業技術センター	半導体スピンドバイスの基盤技術開発	H23～H27	B	B	B	B	B
19	産業技術センター	ユビキタス組成次世代超硬材料の開発	H24～H28	B	B	B	B	B
20	産業技術センター	超臨界発泡成形による長炭素繊維補強プラスチック材料の次世代輸送機への適応に関する研究	H24～H28	B	B	B	B	B
21	産業技術センター	電界砥粒制御技術を用いた次世代半導体基板研磨システムの開発	H25～H29	A	B	B	B	B
22	産業技術センター	液晶マイクロレンズアレイによる配光制御デバイスの開発	H25～H27	B	B	B	B	B
23	産業技術センター	高度光計測技術の先端農業分野への応用	H25～H27	B	B	B	B	B

※評価結果(総合評価)の意味  
A: 当初計画以上の結果が期待できる  
B: 当初計画通りの結果が期待できる  
C: さらなる努力が必要である  
D: 継続する意義は低い

平成26年度 事後評価(平成25年度終了研究課題)結果一覧

	研究機関名	課題名	事業年度	目標達成度	効果	総合評価
1	総合食品研究センター	地域に根ざした農林水産物の販売促進と食の観光資源に資する技術開発	H23～H25	A	B	B
2	総合食品研究センター	蔵付き醸造微生物の検索と酒類への利用	H23～H25	A	A	S
3	総合食品研究センター	白神微生物を核とした白神ブランドの確立	H23～H25	B	A	B
4	健康環境センター	食用牛の腸管出血性大腸菌保菌状況と分離株の菌学的性状に関する研究	H24～H25	A	A	S
5	農業試験場	園芸作物病害虫の現場対応型防除技術の開発	H21～H25	B	B	B
6	農業試験場	‘秋田の顔となる野菜’の生産拡大を目指した新技術開発	H21～H25	B	B	B
7	農業試験場	第3期次世代銘柄米品種の開発	H22～H25	B	B	B
8	農業試験場	太陽光発電を活用したキク電照栽培システムの確立	H23～H25	B	B	B
9	農業試験場	地球温暖化に対応した水稻品種の開発と栽培技術の確立	H23～H25	A	B	B
10	農業試験場	農業経営の継承・人材育成プロセスの解明および支援手法の開発	H24～H25	B	B	B
11	農業試験場	次世代秋田型水田農業モデルの開発	H24～H25	B	B	B
12	農業試験場	水稻直播用品種と高品質加工用米品種の開発(Ⅱ)	H25～H25	B	B	B
13	果樹試験場	新品種「シャインマスカット」等の一文字短梢仕立て法による大粒種無核栽培法の確立	H20～H25	A	A	S: 追跡必要
14	果樹試験場	オウトウ「佐藤錦」の結実安定技術の確立	H21～H25	B	B	B: 追跡必要
15	畜産試験場	比内地鶏生産性向上のためのロード種鶏群の改良	H23～H25	C	B	C: 追跡必要
16	畜産試験場	初産乳牛の移行期に適した飼料の段階的増給方法および繋留条件の検討	H23～H25	A	A	A: 追跡必要
17	畜産試験場	アマニ豚の付加価値向上と低コスト化に関する研究	H24～H25	A	B	B: 追跡必要
18	水産振興センター	秋田の川と湖を守り豊かにする研究	H21～H25	B	B	B
19	水産振興センター	ふるさとの海の恵みを守る研究	H21～H25	B	B	B
20	水産振興センター	ハタハタの資源変動要因と漂着卵に関する研究	H22～H25	A	A	A
21	林業研究研修センター	特用林産物の秋田ブランド化並びに機能性と安全性に関する研究	H21～H25	A	A	A

※評価結果(総合評価)の意味

S:当初見込みを上回る成果

A:当初見込みをやや上回る成果

B:当初見込みどおりの成果

C:当初見込みをやや下回る成果

D:当初見込みを下回る成果

※なお、総合評価結果欄に「追跡必要」と記載があるのは、28年度に追跡評価の実施を検討する研究課題。

平成26年度 追跡評価(平成23年度終了研究課題)結果一覧

	研究機関名	課 題 名	事業年度	研究成果の活用方法	研究成果の活用状況	経済的波及効果	県民生活上の波及効果	科学技術推進への波及効果	総合評価
1	畜産試験場	ウシ低ランク胚および体外操作胚の有効活用による高品質肉用牛生産技術の検討	H21～H23	A	A	A	-	A	S

※評価結果(総合評価)の意味

S:当初見込みを上回る効果

A:当初見込みをやや上回る効果

B:当初見込みどおりの効果

C:当初見込みをやや下回る効果

D:当初見込みを下回る効果